

社会保険労務士からの三方一両得だより

平成30年2月20日 第101号

袋田の滝に行ってきました

この冬は寒さの厳しい日が続き、栃木県でも数年ぶりに大雪が降りました。比較的暖かい湘南出身の私にとって、この寒さは生まれて初めての経験です。天気予報を見ると連日のように -7° や -8° の数字が並ぶ様は、我が目を疑うような光景でした。

テレビでは北陸の豪雪や各地の湖が凍ったニュースが報じられるなか、家の中で炬燵に入って震えているばかりでしたが、ただ寒い寒いと言っているばかりでも芸がないことです。発想を一気に逆転させて、いっその事この寒さを楽しんでしまおうということで、7割ほど結氷しているという情報のあった、袋田の滝に行ってきました。



下からの見上げ。

トンネルの先のエレベーターを降りた先には、一面の凍った滝が現れました。景色に変化が無いのでそんなに長い間見ていただけるものでもありませんが、一見の価値は十分にあります。凍った滝に流れ込む川の水はどこに行くのかも、現地で見れば一目瞭然です。来年も寒ければ、ぜひどうぞお訪ねください。

袋田の滝については名前を知っている程度で、全く事前情報のない状態で向かいましたので、周辺の宿や土産物屋、食堂の多さに驚きました。一大観光地だったのですね。公営の駐車場から歩いていく道沿いの川が、結構な幅で凍っているのにテンションが上がりましたが、本体はそんなものではありません。



上からの全体図。



葉っぱの勢いがありません。

我が家の畑
本文と被りますが、家庭菜園にも大雪の影響が出ています。いつにない積雪量、そして寒さで一向に雪解けがすすまなかつたせいか、大根の成長もピタリと止まってしまったようです。本来ならもつと早く抜いて、保存しておくべきなのかもしれませんが、うちの庭では元々成長が遅いため、最後の一伸びを期待して例年植えっぱなしにしています。そろそろ春大根とジャガイモの植え付け準備に取り掛かるとします。

◆ 「働き方改革」は進んでいるのか？

現在、政府が推進する「働き方改革」の名の下に、様々な方面で「働き方」の見直しが進められており、関連する国の動きや企業事例などがメディアでも多く取り上げられています。

その一方で、実態が伴っていない「働き方改革」に対する批判(業務量は変わらず人員の増員もなく、ただ早く退社するように促されるなど)や課題(採用難で個人単位での長時間労働の抑制ができないなど)も叫ばれているところですが、「働き方改革」は、実際、企業ではどのように受け止められているのでしょうか。



全国の人事部門を対象に実施した「働き方改革に関する意識アンケート」の結果によると、約 8 割が、「働き方改革」の必要性を感じていると回答しましたが、実際に「働き方改革」に取り組んでいるのは約 5 割という結果になったそうです。

必要性を感じながらも、実行できていない企業がまだ多いことがわかります。

また、「働き方改革」の具体的な施策として取り組んでいることで最も回答が多かったものは、「労働時間の見直しや改善」となっており、「休暇取得の促進」が続いています。「女性の働きやすい環境作り」と「育児・介護中の社員が働きやすい環境作り」という回答も多く集まり、女性を支援する施策に取り組んでいる企業も多いことがわかります。

また、企業の人事制度の企画・運営および「働き方改革」推進責任者を対象に実施した実態調査の結果によると、「働き方改革」推進上の課題として、「社外を含めた商習慣を変える難しさ」を挙げる回答が 62.1%と最も多く、「現場や他部署との連携が難しい」(54.0%)、「マネジメント難度上昇への懸念」(50.3%)が続いています。

しばしば日本は何でも過剰品質だと言われる。企業間の連絡一つをとってみても、文書冒頭の時候の挨拶、FAX や郵送物の送付状など、不要と思わなくもないケースがあります。しかし、先方の反応が分からないためこれを省くことには躊躇してしまうものです。

日本全体で様々な基準をもう少し緩い雰囲気にしないと、長時間労働を抑制することも難しいのかもしれない。